

こんにちは！ 農業普及所です！



第 118 号
 県中農林事務所須賀川農業普及所
 須賀川市花岡 3 4 番地
 TEL 0248-75-2180・2181
 FAX 0248-72-8331
 E-mail sukagawa.af02@pref.fukushima.lg.jp

須賀川・石川地方からはじめよう。～新技術と新しい取り組みの紹介～

当普及所では、普及指導計画の視点「ひとづくり・ものづくり・地域づくり」に基づき、担い手育成や園芸産地づくり、水田農業や畜産経営の確立支援、中山間地域の振興に向けた農業・農村の活性化支援等を行っています。今回の普及たよりでは、近年課題となっている米価下落の影響による水田農業のあり方や、豪雨や干ばつ等の異常気象による園芸品目の生産量・品質低下への打開策として、新技術導入や新しい取り組みを紹介いたします。今後、これらの取組が拡大されるよう、平成 28 年度も支援して参ります。

めざせ！地産地消による飼料自給率アップ！！

J A あぶくま石川では、主食用米価格の下落や配合飼料の高止まり等を受けて、飼料用米の地産地消をすすめるため、今年度、初めて米粉サイレージの加工調製・給与実証に取り組んでいます。

収穫作業は 10 月中旬から始まり約 2 週間かけて水田 15ha の米粉の加工・調製を行いました。また、初めての試みということもあり、畜産農家を対象に研修会や説明会を開催し、飼料用米利用についての理解を深めました。

米粉サイレージについては県内での給与事例がほとんどないため、今後、畜産農家の協力のもと給与実証を行い、得られた知見を地域内に波及していくことによりさらなる利用拡大を目指しています。

普及所においては、これらの取組みが地域に定着するよう今後支援を継続していきます。



米粉サイレージ調製の様子

汎用型飼料収穫機械の活用による自給飼料増産！



汎用型飼料収穫機による収穫の様子

鏡石町桜町地区の酪農家を中心に組織される鏡石北部飼料作物生産組合では、粗飼料自給率向上を目指して、当普及所管内では初めて汎用型飼料収穫機を導入し、昨年度はトウモロコシの細断型ロールサイレージの収穫調製に取り組みました。今年度は、さらなる自給飼料生産拡大に向け、同機械による稲 W C S の収穫調製に試験的に取り組みました。初めての大型収穫機械による水田での作業や 8 月下旬からの長雨の影響で、試行錯誤しながらの取り組みではありましたが、出来上がったサイレージの飼料品質は良好でした。今後も継続した取り組みとして定着させ自給飼料増産につなげていけるよう支援していきます。

園芸品目の新技術と新しい取り組みを紹介します(きゅうり・さやいんげん・なし)

きゅうり

雨よけ栽培で収量・品質アップ！

平成27年は管内で新たに17名が雨よけ栽培に取り組みました。雨よけ栽培に取り組んだ生産者からは、単価の高い時期に収量があり、また天候によらず作業ができる等の声が聞かれました。その他にも、栽培期間の拡大(温度確保)や草勢確保による収量の向上、病害虫発生の減少等、さまざまな導入メリットがあります。かん水設備のあるほ場で露地栽培を行っている方や、年2作のハウス栽培に取り組み労力不足で作業が遅れ気味な方に、植替作業もなく、収量・品質の向上が期待できる雨よけ栽培を推進していきます。



雨よけ栽培の様子

さやいんげん

簡易かん水装置で生産安定を目指しましょう！



点滴チューブ設置状況

さやいんげん栽培は、近年の異常気象の影響で作柄が大きく左右され、生産が安定しません。そこで、経費があまりかからず導入できる簡易かん水装置を設置し、慣行(かん水装置設置無し)と比較しました。今年はお盆以降、低温と日照不足等でかん水装置の稼働期間は短くなりましたが、慣行区と比べて単年度の成績ではありますが増収が確認されました。10a当たりの導入経費は16万円程度です。減価償却を考慮すると年間2.5万円程度となり単収向上で十分賄える金額です。装置は安価で操作も容易ですが、導入に当たっては、水源とある程度の水圧が必要です。設置条件が整っていれば、導入されることをお勧めいたします。

なし

新技術「樹体ジョイント仕立て」に挑戦！

「樹体ジョイント仕立て」は神奈川県で開発された革新的な技術です。長さ約3.5mまで苗木を養成し、定植と同時に先端部を隣接樹にジョイント(接ぎ木)することで樹形が完成します。その後、側枝を形成するだけで樹形が完成し、ジョイント後4年目で成園並の収量を達成できる早期成園化技術です。さらに、主枝が直線化されることでせん定及び摘果など作業時間の短縮が図られ、また管理作業が簡単になるため初心者でも習得しやすくなります。

管内でも来年度から新たに3件の取り組みが始まり、今後の現地での普及拡大が期待されます。

神奈川県農業技術センターの
なし樹体ジョイント仕立て

続 このカメムシにピンときたら普及所へ！ ～防除編～

今年も福島空港近辺の山間部の水稻作付ほ場を中心に「イネクロカメムシ」の目撃情報がありました。被害の大きいところでは収量が3割近く減少しました。そこで、今回は次年度に向けた防除方法をご紹介します。

①残効性が短い(効果が1ヶ月程度)箱施用剤(デジタルコラトップアクタラ箱粒剤やDr.オリゼスタークルなど)を使用する場合

「イネクロカメムシ」の発生が最盛期である6月中旬頃に効果が無くなってしまいうため、被害の大きいほ場(畦畔際を見渡して1株当たり5頭を超えるようなほ場)は6月下旬、7月中旬、8月上旬にイネクロカメムシの発生状況を見て追加防除を実施してください。

②残効性が長い(効果が2ヶ月程度)箱施用剤(デジタルメガフレア箱粒剤やDr.オリゼスタークルOS箱粒剤など)を使用する場合

7月中旬頃に効果が無くなってしまいうため、被害の大きいほ場は7月中旬、8月上旬にイネクロカメムシの発生状況を見て追加防除を実施してください。



Let's
チャレンジ!!

頑張っている農家を紹介します!

大島 幸陽さん(石川町王子平)



石川町で和牛繁殖を営む大島幸陽さんをご紹介します。

大島さんはもともと牛が好きで中学生の頃から近所の酪農家の手伝いをしていたということですが、その意志は大学生となり東京で過ごしている間も揺るがず、卒業後は迷わず実家に戻って繁殖牛の規模拡大を目指して就農されました。



就農から5年目となり、当初6頭だった繁殖牛は28頭まで増頭、父親が主体で行っているミニライスセンターのオペレーターも兼務しながら農業に取り組んでいます。

今後は、自給飼料を拡大し繁殖牛部門のさらなる増頭を図っていきたいという大島さん、産地を支える重要な担い手としてますます活躍が期待されます。

ハクビシン、あなたの畑で増やしていませんか？

ハクビシンによる農作物被害、捕獲頭数は年々増加傾向にあり、もはや「市役所・役場に捕ってもらえばいいや」では、被害を防止することはできません。毎年ハクビシン被害が発生するのに対策をしないのは、ハクビシンに餌付けをして個体数の増加の手助けをしていることと同じです。ハクビシンは音、光、臭いを用いた忌避資材を設置した数日間は警戒しますが必ず慣れて畑に侵入します。ハクビシンの習性である探査行動を利用した簡易電気柵が最も効果的です！

楽落くん

- ①ハクビシン、タヌキ、アライグマなどの中型獣類の他、イノシシにも対応可能！
- ②高さは約40cmなので普段の農作業への影響が少ない！
- ③資材はトリカルネット、グラスファイバーポール、結束バンド、リボンワイヤー、電牧器のみ！
- ④mあたりの設置費用は約200円（電牧器は除く）。電牧器も乾電池式（約15,000円）でOK！
 - 総設置費は周囲が100mの圃場で約35,000円ですが、10年は使用が可能です！
 - 年間3,500円の経費で設置が可能です。被害に遭う作物の損失とどちらが大きいですか？

詳しい作り方は埼玉県HPに公開されています。「楽落くん設置マニュアル」で検索、または普及所までお問い合わせください (<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/documents/rakuraku-ver-23.pdf>)。



設置状況（埼玉県農林総合研究センターより引用）

知っていますか？『種苗法』

最近、各県では米の新品種を育成し、新たなブランドとして売り出しています。例えば、山形県の「つや姫」や青森県の「青天の霹靂」等がこれにあたります。これらの品種は高値で取引されているため、注目を集めていますが、その多くは限定された産地でしか栽培が認められていないため、本県では栽培できません。未許可での栽培や販売は、新品種保護のための法律『種苗法』により、刑罰の対象となりますので、十分に注意してください。

農地中間管理事業（農地集積バンク）を利用して、農地の貸し借りをしませんか？

農地を貸したい、借りたいという方は福島県農業振興公社（農地中間管理機構 TEL：024-521-9845）または須賀川農業普及所、各市町村農政担当課・農業委員会へご相談ください。